

## BIS 論壇 No. 528 『骨董事始め—3』 中川十郎 2026 年 8 月 15 日

インドで 50 年以上前の 1970 年代初頭に始めた筆者の骨董遍歴は、ブラジル・リオデジャネイロ、サンパウロ、ペルー、パナマ、コロンビア、カナダ、ニューヨークと駐在地や出張地でも博物館、絵画館、骨董店訪問を継続した。インドでの仏像から始まった骨董収集は、ブラジルからは銅版画、家具、調度品、食器などにも広がった。

ブラジル北部のバイアにはインドで骨董を手ほどきいただいた千住金属 佐藤千寿元社長のお供でサンバの原型といわれるバイアの踊りを見学方々骨董店訪問に同行させていただいた。その際、ブラジル農家で 500 年使っていたという食卓を買い求めた。この食卓は釘一本も使っておらず、すべて木材の組み合わせでできていた。

この食卓の輸送は 2000 キロ離れたリオデジャネイロまでトラックで運送してもらったが、食卓よりも運送費がかさんだ。ブラジルから帰国時、パナマ運河経由で東京の我が家に運ばれてきた。この食卓を囲み食事の際はブラジルのサンバのレコードを聴きながら、リオ、サンパウロ駐在時を懐かしく回顧している。

応接間のカーペットは、1960 年当時バグダッド駐在時、ベイルートに出張時、購入したペルシア絨毯と インド駐在時買い求めたカシミールの絹、羊毛混紡のじゅうたんで、アラブの音楽やインドの音楽を聴きながら当時を懐かしんでいる。

ブラジル・リオ・サンパウロ駐在時に求めた年代物のクリスタルのワイングラスはお客が訪問された際、活用している。どっしりと重いワイングラスでたしなむワインのおいしさは格別である。

妻が NY で買い求めたデンマークやフランス、イタリア、英国の骨董の食器や紅茶茶碗でたしなむ食事、紅茶は格別においしく、あわせてこれらの国々のレコードで音楽を聴きながら、お客と共に当時を回顧するのもまた楽しいものである。

駐在した国々や出張をいれて訪問した 80 カ国で買い求めた骨董や民芸品、家具に囲まれて各国で収集したレコードや CD で音楽を聴くと外国の得意先や懇意にしていた方方を思い起こす。若い頃、ビジネスでお世話になった方々や友人、さらには日本人駐在員やそのお家族の方々を懐かしく思い出し、懐旧の念に駆られる。

その意味でも骨董や絵画、家具、食器類は私の人生の思い出の玉手箱である。これらの思い出多い骨董や家具、音楽に囲まれ、残りの人生を悔いなく生きたいと念願している今日この頃である。骨董に感謝！